

### 段落ち抜染デニム (福山市)

デニムを鮮やかに彩るバラや金魚、ペイズリー…。この柄が消えることはない。山陽染工(福山市一文字町)が手掛ける「段落ち抜染デニム」は、生地の色を抜き、線や柄をつくる「抜染」技術を進化させた「段落ち抜染」で作った製品。海外の高級ブランドに採用されるなど、国内外で高い評価を得ている。

色を抜く薬剤の濃度や、薬剤を生地に付着させる圧力を微妙に調整することで数ミリの単位で加工できるのが同社の強み。デニムの色を2〜4段階で抜き、濃淡の細かいグラデーションを表現することから「インディゴ段落ち抜染」と名付けている。

もともと抜染は初代社長の故松本末太郎さんが考案し、日本三大緞の一つ・備後緞の染色、抜染加工メーカーとして1925年に同社を設立。段落ち抜染は2014年、英国の高級生地メーカーから依頼を受けたのを機に独自開発

## 緻細に濃淡表現 高評価



段落ち抜染を手掛ける山陽染工の工場



「BASSEN WORKS」のシューズや段落ち抜染を施した生地

**デニム抜染** デニムの糸の色を薬剤で抜き、柄や線を表現する。薬剤は無色透明で仕上がり具合が分かりにくいいため、大量生産には高度な技術が求められる。「インディゴ段落ち抜染」では、最大4段階で抜くとともに着色もできる。プリント加工と異なり、染料がはがれないため、使うほど色落ちするデニム独特の味わいが楽しめる。

メモ

した。4代目の松本社一朗社長は「培ってきた経験、知識を基に『必ず答えはある』と社員一丸となって試行錯誤した結果。約半年かけて完成し

たときは充実感でいっぱいだった」と振り返る。昨年には抜染に特化した自社ブランド「BASSEN WORKS」を創設し、段落ち抜染の生地やシューズをPR

ち抜染のデニムを使ったシューズを発表。インターネット販売ながら、1カ月で1500足が完売したサイズもあるなど注目を集めた。今年2月には、イタリア・ミラノで開かれた世界最大規模のテキスタイル(布地)展示会「ミラノ・ウニカー」に初出展。段落ち抜染の生地やシューズをPR

松本社長は「今後も商品開発を進めて技術力の高さをアピールするとともに、染色業界を盛り上げたい」と力を込める。(松山慎二)

＝随時掲載

### 吉備の国ふるさと探訪

# 朝鮮通信使足跡たどる

ぞうれし  
いもん  
×  
いもん

＝福山市春日町＝らが 目的地の瀬戸内市牛窓  
「みなさんは21世紀の 地区に出發した。  
月洋通信使(1777年、今迄) 司長(長尾重隆)の宣旨(宣旨)を  
7回目。両国に残る朝 産)に登録されてか 終盤に崇徳を突き放し  
14日(1777年)に

ファンの声

- # 柄が消えずに色落ちが楽しめるのがうれしい
- # 柄物のデニムシューズの登場を待っていた
- # 「BASSEN WORKS」はデニムコーデにぴったり

(山陽染工に寄せられた顧客の声から)